バンコクで実施した ICPD ユースフォーラムの参加者らと

タイ・フィールド便り

No.2 | 2022 年 5 月

2019 年 3 月から 2022 年 3 月まで、バンコクにある UNFPA のアジア太平洋地域事務所で勤務した秋山真輝（まき）です。Adolescent and Youth Programme Analyst として活動した 3 年間を振り返ります。

若者の社会参加促進とエンパワーメント

前半は Comprehensive Sexuality Education（包括的性教育）に関してお話しましたが、後半では、若者の社会参加促進とエンパワーメントに関する業務を振り返ります。UNFPA のミッションの一つは若者が自己実現のために自らの潜在能力を最大限に発揮できる社会の実現です。それに向け、UNFPA は包括的性教育の提供や性と生殖に関する健康サービスへのアクセス向上を提唱しています。同時に、「Nothing about us without us（私たちのことを私たち抜きで決めないで）」というスローガンのもと、若者の社会参加を促進し、若者が政策提言をするための機会の提供、政府の取り組みなどに対して若者主導のアカウンタビリティー（説明責任）メカニズム構築への支援を行っています。第一号でお話しした、アジア太平洋地域における性教育の実施状況に関する調査の一環として若者対象のアンケート調査を行ったのも、これらの取り組みの一例です。

国際人口開発会議（ICPD）ナイロビ・サミット

私がアジア太平洋地域で勤務した 3 年間での最大のハイライトは、2019 年の国際人口開発会議（ICPD）[1]ナイロビ・サミットです。ナイロビ・サミットは、170 か国の政府機関、市民社会、ユース団体、企業などから、8000 人以上が参加しました。私の担当は、アジア太平洋地域を代表するユース約 100 人の、サミット参加に向けたサポートでした。ユースネットワークと市民団体と共に運営委員会を立ち上げ、ユース枠参加者の公募と選考から能力強化、事前オリエンテーション、事後フォローアップまでを一貫して行いました。

バンコクで実施した ICPD ユース・フォーラムにて、南アジアのグループによる発表

[1] 国際人口開発会議（カイロ会議/ICPD-International Conference on Population and Development）は、1994 年、179 か国の代表が出席してエジプト・カイロで開催されました。この会議では 179 の政府がカイロ行動計画を採択し、人口は数の問題ではなく、1 人ひとりの尊厳と生活の質に関する問題である、と合意されました。

バンコクで実施した ICPD ユース・フォーラムに参加した、アジア太平洋地域のユース活動家たち

ナイロビ・サミット後、活動の場を広げるユース活動家たち

これは、参加者がナイロビのサミットでアジア太平洋地域の若者を代表して活躍できるようにするために不可欠でした。20 か国以上から、様々な背景を持つ若者が集まり、ICPD について理解を深めると同時に、アジア太平洋の若者が抱える課題、それらの課題に対するユース主体の解決法、政府への要望などに関して活発な意見交換が行われました[2]。また、コンサルテーションのなかで、アジア太平洋の若者としてのコミットメントを取りまとめ、代表者がナイロビのサミットで発表しました[3]。そのほかにも、様々なセッションでアジア太平洋のユース参加者が活躍しました。特に、コミュニティー・ゾーンでは、何人ものアジア太平洋のユース参加者が自身の行っている地域でのピア教育活動や、アドボカシー活動などについて発表をしました[4]。アジア太平洋の若者の声やリーダーシップの強さを世界にアピールできたのがサミットの最大の成果でした。

サミット参加者は「ICPD アドボカシー・ユース活動家」となり、UNFPA との連携はサミット終了後も、様々な形で続いています。例えば、多くのユース活動家は CSE/包括的性教育の推進に熱心に取り組んでおり、前半でお話しした性教育のアンケート調査にはユース活動家の多くが翻訳に協力してくれたおかげで、11 言語で実施することができました。また、多くのユース活動家はピア・エデュケーターとなり、経験の浅いユース活動家の能力強化に貢献しています。新型コロナウイルスへの対応で活躍しているユース活動家も多くいます。各国のメンタルヘルスのホットライン情報などを集約と拡散、正しい知識を広めることを目的としたソーシャルメディアキャンペーンへの参加など、様々な形で貢献しています。

その他、ウェビナーやイベントでのスピーカーや司会者として活躍するなど UNFPA の広報活動などにも貢献をしています。サミットのために作成したソーシャルメディアグループとメーリングリストは、サミットから 2 年半近く経った今もアクティブで、ユース活動家同士の情報交換が続いています。様々な経験や強みを持つユースの活動家達と出会ったことは、私が UNFPA で得た最大の財産です。エネルギーに満ちたユース活動家から多くのアイディアやインスピレーションもらいました。
ユース活動家と信頼関係を築くのは時間も必要ですが、「若者が自己実現のために自らの潜在能力を最大限に発揮できる社会の実現」という UNFPA のミッションの実現のためには、ユースとの連携が不可欠です。若者が抱える問題の解決策の鍵を握っているのは若者自身だからです。

---

[2] コンサルテーション中に作成された、アジア太平洋地域のユースの ICPD へ思いををまとめた動画 https://www.youtube.com/watch?v=KxQn8ThuCBU
[3] アジア太平洋のユースのコミットメントを詩で表現した動画 https://www.youtube.com/watch?v=zka1wPQ78NA
[4] 詳細はサミットの報告書を参照。https://www.unfpa.org/publications/accelerating-promise-report-nairobi-summit-icpd25